



亀っ子だよ

第39号

— 亀崎小学校 校長通信 — 2021年4月28日

「礼」を何度も練習する児童会長

今年度から給食終了後、歯みがきを行うことになりました。その時の注意事項を家田先生が全校にお話しする朝会が先日行われました。朝会なので私も児童会長も呼ばれ、「2人で朝の挨拶をしてください。そうしたらテレビで見ている全校の子どもたちも合わせて礼をしますから」と児童会担当の先生から説明を受け、8時20分のチャイムを待ちました。その待っている間、児童会長は、何度も何度も1人で「礼」の練習を繰り返していました。テレビでの挨拶でしたが、真剣に取り組む児童会長の姿勢に、心打たれました。立派な児童会長です。

グラウンドのトラックに整備した跡が…

最近、朝グラウンドに出ると200mトラックを整備した跡が、週に何度もあります。27日（火）の朝もありました。校務主任に尋ねたところ、「トレーニングのためか、グラウンドを整備するためか分かりませんが、朝早く、タイヤを引いて走っている人を見かけます」とのことでした。整備の跡は、200mトラックを何周も回らないとかけきれないほどのものです。けっこうハードな運動です。その人のトレーニングに対する姿勢の素晴らしさを感じます。一度声をかけて、お礼を言いたいと思っています。

ある教室にて

先日、給食の配膳や会食の様子を見学するため教室を回っていました。ある教室で、上手に配膳し終えた後、おかずがまだ余っていたので「おかずを増やしたい人は、食器を持って並んでください」と担任の先生が声をかけました。多くの子が食器を持って並んでいたところ、ある女の子が前の子とぶつかってしまい、おかずをこぼし、服も汚れてしまいました。すると、担任の先生が気づくよりも先に1人の男の子と2人の女の子がすぐに駆け寄ってきて、床を拭いたり、女の子の服を心配したりしていました。子どもたちのとっさの行動にびっくりするとともに、優しい子がいるクラスだと感心しました。このクラスの中に、優しさの輪が広がって、みんなが成長し合うクラスになっていってほしいと思いました。

君たちのことを全力で応援するよ

4月当初、6年生が学年集会を行いました。学年主任に「どんなことを話したの？」と尋ねると、「君たちは6年生なのだから、君たちが正しいと思ったことを実行しなさい。先生たちはそのことを全力で応援するから」と答えてくれました（記憶違いの箇所があるかもしれませんが）。ある人が、「成功の反対は失敗ではなく、何もしないこと」と言っていました。私もその通りだと思います。子どもたちの考えを生かし、実現させるために教師が子どもをサポートする中で、子どもたちはたくさんのことを学ぶでしょう。そこでの学びは、子どもたちがよりよく生きようとするエネルギーになり、そこで得られた友との関係は、一生の宝物になるものだと思います。6年生の子どもたちのことを私も陰ながら応援し、支えていきたいと思っています。そして、6年生の先生方も応援し続けていきたいと思っています。

表彰の記録

- 第12回全日本ジュニアピアノコンクール
全国大会連弾部門初級 銀賞 正岡 珠愛（6年）正岡 瑠愛（5年）
- リトルリーグ東海連盟三河ブロック
春季大会 第3位 知多リトルリーグ 長嶋 優和（5年）星野 暖翔（5年）
- 第35回全日本小学生女子ソフトボール大会 三河予選 第3位
滝塚ちえり（6年）澤田 悠乃（6年）原 亜実佳（6年）奥野 倅奈（6年）
兼井 梓紗（6年）澤田 朱璃（3年）
- 第22回愛知県空手道選手権大会
小学5年生男子 組手 敢闘賞 間瀬 来煌（5年）
- 第31回半田市近郊陸上競技大会
小学3年以下 男子走幅跳 第2位 間瀬 真翔（3年）
小学4年 男子50m 第3位 日置 悠登（4年）
小学5年 女子走高跳 第3位 間瀬 花帆（5年）
小学6年 女子走高跳 第3位 榊原 瑠花（6年）

♣ 子育てアラカルト ♣

「ごもっとも」より「なるほど」

成人した子どもにお説教する。

「またタバコなんか吸って、やめなさいといつも言ってるじゃないの。健康に良くないし、第一お金がもったいないわよ。もうあんたの事なんか知らないからね。勝手にしなさい…」

言い方はともかく、言っていることは正しい。まさに「ごもっとも」だ。正しいだけに反論もできない。

こんな話がある。

【エピソード】

「雪の降る街を」の作詞でも有名な内村直也氏が、タバコを吸っている娘に言った言葉。

「おいしければ吸ってもいいけど、まずければやめなさい」

なるほど！この言葉のいいところは「なにがなんでもいけない（禁止）」とっていないところである。相手の判断にゆだねているのである。決めるのは娘さんだ。親がこんな言葉を投げかけることができたらと思う。きっとその娘はやめた（少なくともやめようと思った）はずだ。

「親の言葉は怖い。子どもの才能を掘り起こすこともできれば、埋没させることもできる」という心に刻む言葉がある。まさに言葉一つで180度変わってしまうのだ。

「話の分からない子どもは一人もいない。子どもにわかるように話のできる大人がいないだけだ」という言葉をじっくりとかみしめたい。

今日も、あなたの「わかる一言」を待っている子どもがいる。

（ある教育者のひとり言 より）